

[原著]

助産学教育に関する研究

—助産学生の職業的アイデンティティの実態と関連要因—

中 島 由 紀 子 山 内 葉 月

Study on the midwifery education : Present situation of professional identity in midwifery students and related factors

Yukiko NAKASHIMA, Hazuki YAMAUCHI

熊本保健科学大学 保健科学部 看護学科
前熊本大学大学院 生命科学研究所

本研究は、助産学教育の質的向上に資するための基礎的資料を得るために、助産学生の職業的アイデンティティに関連する要因等の特性および教育上の課題について明らかにすることを目的とした。

助産学生249人を対象に、職業的アイデンティティ、助産師の志望動機、自己効力感および将来の就業継続意思等について無記名自記式質問紙調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 助産学生の職業的アイデンティティ得点は高く、志望動機のうち、「専門性追求」と「適性考慮」は職業的アイデンティティに有意な正の影響を与えた。
2. 自己効力感が高い学生ほど、職業的アイデンティティ得点が有意に高かった。
3. 助産学生の就業継続意思は強く、就業継続意思が強い学生ほど職業的アイデンティティ得点が有意に高かった。

以上のことから、助産学教育の質的向上を図るためには、学生の特性を踏まえた教育法の開発や教育的支援を強化する必要性が示唆された。

キーワード：助産学教育，助産学生，職業的アイデンティティ，志望動機，自己効力感

I. 緒 言

近年、わが国では周産期医療において、助産師の専門性を活かした役割分担と連携が推進され、自律した助産師の活躍が期待されている。しかし、少子化や出産を取り扱う医療機関の減少によって、助産師の実践能力育成の場や機会が得られにくくなっている¹⁻⁴⁾。助産学教育は、1999年までは養成所での教育が最も多かったが、看護系大学が増加すると同時に4年制の看護学教育における選択科目として位置づけられるようになった。現在、助産師教育は大学院、大学専攻科、4年制大学、大学別科、短期大学専攻科、養成所と多様化しており、助産師免許を取得するまでのカリキュラム内容も様々である。竹

内⁵⁾は、いずれの教育課程であっても、助産師教育の目標と内容が、実践的に最低水準の能力を保証するものでなければならないと述べている。助産師の自律性・専門性を強化するためには基礎教育を充実させ、社会のニーズに応じた助産学教育を行っていく必要がある^{6,7)}。

助産師の社会的需要が高まるなか、平成21年に保健師助産師看護師法が改正され、助産師の基礎教育における修業年限が「6ヶ月以上」から「1年以上」に延長された⁸⁾。それにともない保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部が改正され、実践能力の強化に向けた教育内容の充実化が図られ、総単位数が23単位から28単位に増加した⁹⁾。今日のわが国においては、自律した助産師の育成・活躍がよ

り一層期待されている。

小泉¹⁰⁾は、専門職としての実践の質を保証していくためには、正確な知識と技術が必要条件であるが、その活用や態度を方向づける職業的アイデンティティが伴わなければならないと述べている。また、田川ら¹¹⁾は、助産学教育において、助産師としての職業的アイデンティティの形成は重要な課題であると述べており、自律した助産師として活躍していくうえで、職業的アイデンティティは欠かせない要素である。その職業的アイデンティティの獲得には、学生時代からの支援の必要性が指摘されている¹²⁾。

助産学教育の充実・向上のためには、社会のニーズを把握することに加え、教育の受け手である助産学生の特長や助産学に対する考えについて知ることが重要である。今日、様々な助産学の研究が行われている中、助産学生を対象とした先行研究では、助産学教育の展開方法や臨地実習指導上の工夫をみつかったもの^{13, 14)}は多くみられる。しかし、助産学生の考えや意識に関するもの¹⁵⁾はあまり見られない。

そこで本研究では、助産学教育の質的向上に資するための基礎的資料を得るために、職業的アイデンティティに関連する要因等の特性および教育上の課題について明らかにすることを目的とした。

Ⅱ. 方 法

1. 研究の枠組み

自律した助産師として専門性を発揮していくためには、職業的アイデンティティの形成が重要である。職業的アイデンティティは基礎教育から形成されていくため、助産学生像を把握することは、職業的アイデンティティ形成に向けての支援や自律した助産師の育成に役立つと考える。本研究では、助産学生像を知るために、職業的アイデンティティ、志望動機、自己効力感、就業継続意思の実態について明らかにし、職業的アイデンティティと志望動機、自己効力感、就業継続意思との関連について分析・検討する。(図1)

2. 対象

研究への同意が得られた助産師教育機関に在籍している助産学生249人を対象とした。

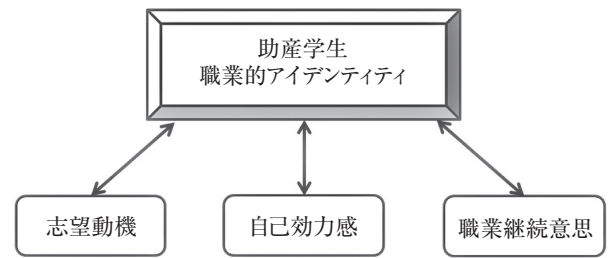


図1. 研究の枠組み

3. 調査方法

助産師教育機関の責任者に研究の趣旨、方法、倫理的配慮、個人情報保護について説明した文書および同意書を郵送し、質問紙調査への協力を依頼した。教育機関の責任者より同意が得られたら、研究の趣旨、方法、倫理的配慮、個人情報保護について説明した文書、同意書、質問紙ならびに返信用封筒を各教育機関の責任者に郵送し、調査対象者への配布を依頼した。調査への同意書および回答後の質問紙は、同封した返信用封筒で返送してもらいデータを収集した。

4. 調査期間

平成24年6月から平成24年9月

5. 調査内容

調査内容は、職業的アイデンティティ、助産師の志望動機、自己効力感、将来に向けての就業継続意思等である。

1) 職業的アイデンティティ

職業的アイデンティティの測定には、落合ら¹⁶⁾によって作成された医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度を用い、本研究の調査対象者である助産学生に合わせて、次のように修正した。質問項目内の「看護職」を「助産職」に、「看護師」を「助産師」に、「看護」を「助産ケア」に、「患者」を「助産の対象者」に変更した。落合ら¹⁶⁾の尺度は、4つの下位尺度「医療職選択への自信(5項目)」「自分の医療職観の確立(5項目)」「医療職として必要とされることへの自負(5項目)」「社会貢献への志向(5項目)」で構成されている。クロンバックの α 係数は、0.87~0.89であり信頼性が確認されている。各質問項目の回答は、「全くあてはまらない」を1点、「非常にあてはまる」を7点とした7件法で求め、得点が高くなるほど職業的アイデン

ティティが高いことを示している。

2) 志望動機

志望動機については、中野ら¹⁷⁾によって医療系専門学校生向けに作成され、信頼性が確認されている進学動機尺度（クロンバックの α 係数0.79~0.88）の5つの因子「可能性追求」「無目的・漠然」「適性考慮」「他律的動機」「専門性追求」を、5つの質問項目として用いた。各質問項目に該当する程度について、「全くあてはまらない」を1、「非常によくあてはまる」を5とした5件法で回答を求めた。

3) 自己効力感

自己効力感の測定には、坂野ら¹⁸⁾によって作成された一般性セルフ・エフィカシー尺度（General Self-Efficacy Scale, 以下, GSES と略す）を用いた。この尺度は、16項目で構成され、尺度の信頼性（再現性、折半的信頼性、内的整合性）および妥当性（内容的妥当性、共存的妥当性、因子的妥当性）が確認されている。各質問項目の回答は、「はい」または「いいえ」の2件法で求め、得点が高くなるほど自己効力感が高いことを示している。

4) 就業継続意思

将来に向けての就業継続意思については、女性労働白書¹⁹⁾に示されている就業継続意識の分類を用いて、「就業継続」「結婚一時退職・再就職」「出産一時退職・再就職」「結婚退職」「出産退職」のいずれか1つを選択するように求めた。

5) 属性

対象者の属性として、学校形態、学年、年齢、取得している看護職（看護師・保健師・助産師）の免許および臨床経験の有無、身内における助産師の有無について回答を求めた。

6. 分析方法

対象者の属性、就業継続意思については単純集計を行い、職業的アイデンティティ、志望動機、GSESについては、それぞれ基本統計量を算出した。助産学生用に修正した職業的アイデンティティ尺度の信頼性についてはクロンバックの α 係数を算出し、妥当性については、職業的アイデンティティと類似概念であると考えられた自己効力感²⁰⁾との関連性を相関係数により確認した。そして、職業的アイデンティティと関連する要因との検討には、以下の分析を行った。職業的アイデンティティと各志望動機との相関係数の算出にはスピアマンの順位相関分析、

職業的アイデンティティに影響する志望動機の検討には重回帰分析、GSESの5段階評定別職業的アイデンティティ得点の比較および就業継続意思別職業的アイデンティティ得点の比較には多重比較検定（Steel-Dwass法）を実施した。なお、統計解析ソフトはStatcel 3 Excel 2010を用い、統計的有意水準は5%未満とした。

7. 倫理的配慮

調査対象者に、質問紙は無記名とし、個人が特定されないように配慮すること、研究への協力は任意であり途中で中止してもよいこと、研究への協力の有無が学校の成績等に影響することは一切なく不利益は生じないこと、得られたデータは個人や教育機関が特定されないよう記号化するなど適切な処理を行い研究目的以外には一切使用しないことおよびデータは鍵のかかる場所で厳重に保管することを文書で説明した。なお、本研究は熊本大学大学院生命科学研究部等疫学・一般研究倫理委員会の承認を得て実施した。

Ⅲ. 結 果

調査協力への同意が得られた19施設に在籍する助産学生249人に質問紙を配布し、197人から回収した（回収率79.1%）。そのうち、回答に不備があった17人を除いた180人を分析の対象者とした（有効回答率72.3%）。

1. 対象者の背景

対象者の平均年齢は24.6（SD ±5.2）歳であり、年齢の範囲は20歳から50歳であった。看護職の免許の有無では、看護師および保健師の免許を取得している者は147人（81.7%）、いずれの免許も取得していない者は33人（18.3%）であった。臨床経験の有無では、臨床経験がある者は69人（38.3%）、臨床経験がない者は111人（61.7%）であった。身内における助産師の有無では、身内に助産師がいる者は14人（7.8%）、いない者は166人（92.2%）であった（表1）。

2. 職業的アイデンティティ

助産学生用に修正した職業的アイデンティティ尺度および下位尺度のクロンバックの α 係数は0.79~0.93を示し、尺度の信頼性が得られたと考える。ま

表1. 対象者の背景

(N=180)

項目	内訳		
年齢	平均年齢	24.6±5.2歳	
	年齢範囲	20-50歳	
看護職の免許	看護師のみ	112人	62.2%
	看護師と保健師	35人	19.4%
	看護師と助産師	0人	0.0%
	看護師と保健師と助産師	0人	0.0%
	取得していない	33人	18.3%
看護職の臨床経験	看護師として	69人	38.3%
	保健師として	0人	0.0%
	助産師として	0人	0.0%
	なし	111人	61.7%
身内に助産師がいるか	いる	14人	7.8%
	いない	166人	92.2%
在籍している学校形態	大学院	14人	7.8%
	大学専攻科	12人	6.7%
	4年制大学	39人	21.7%
	大学別科	10人	5.6%
	1年課程養成所	105人	58.3%

表2. 職業的アイデンティティ得点

(N=180)

職業的アイデンティティ	平均点	標準偏差
職業的アイデンティティ(全20項目)	103.4	±15.8
下位尺度		
医療職選択への自信(5項目)	26.6	±4.8
自分の医療職観の確立(5項目)	25.3	±4.5
医療職として必要とされることへの自負(5項目)	22.8	±5.2
社会貢献への志向(5項目)	28.8	±4.5

た、助産学生用に修正した職業的アイデンティティ尺度と自己効力感との相関係数は0.21~0.34と有意な正の相関が示され、構成概念妥当性が確認された。

職業的アイデンティティ尺度(全20項目)の平均点は103.4(SD±15.8)点であった。下位尺度の中で最も得点が高かったものは、「社会貢献への志向」28.8(SD±4.5)点であった(表2)。また、職業的アイデンティティ尺度の項目あたりの平均点は5.17(SD±0.79)点であった。

3. 志望動機

各志望動機それぞれについて、5段階で得た回答を「あてはまる群」「どちらともいえない群」「あてはまらない群」の3段階に再分類して、集計した(図2)。志望動機別にみた場合、「あてはまる群」

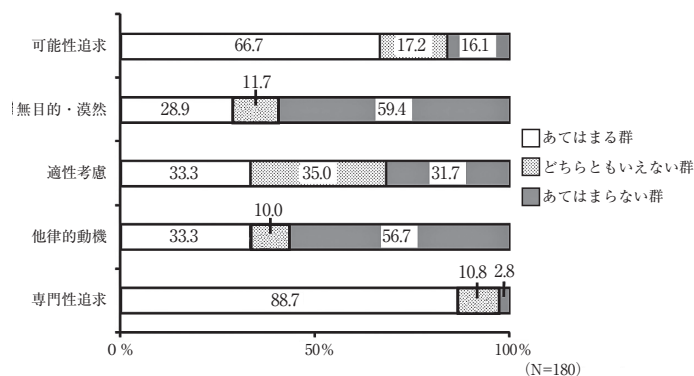


図2. 各志望動機の割合

に回答した学生が多かった志望動機は、「専門性追求」156人(86.7%)、「可能性追求」120人(66.7%)であり、「あてはまらない群」に回答した学生が多かった志望動機は、「無目的・漠然」107人(59.4%)、「他律的動機」102人(56.7%)であった。

4. 自己効力感

GSESの平均点は6.9(SD±3.8)点であった。GSESの得点を坂野ら¹⁸⁾によって示されている5段階評定(学生)の分類、「非常に低い(0から1点)」「低い傾向にある(2から4点)」「普通(5から8点)」「高い傾向にある(9から11点)」「非常に高い(12から16点)」に沿って集計した。この場合、

GSES の程度は、「普通」に該当する学生が67人 (37.2%) と最も多く、次いで「低い傾向にある」学生が38人 (21.1%), 「高い傾向にある」学生が32人 (17.8%) の順であった (図3)。

5. 就業継続意思

将来に向けての就業継続意思の中で最も回答が多かったのは、「就業継続」116人 (64.4%) であり、次いで「出産一時退職・再就職」54人 (30.0%), 「結婚一時退職・再就職」5人 (2.8%) の順であった

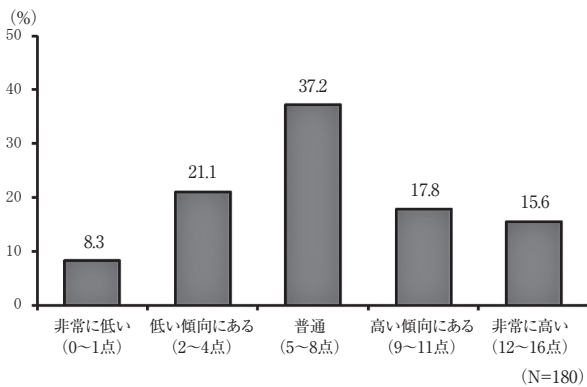


図3. GSES 5段階評定別割合

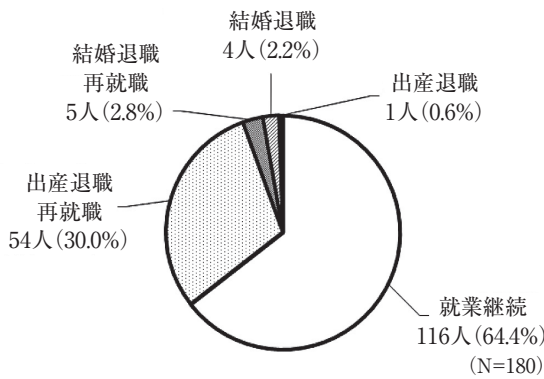


図4. 就業継続に関する意思

(図4)。

6. 職業的アイデンティティに関連する要因

1) 職業的アイデンティティと各志望動機との関連

職業的アイデンティティ尺度 (全20項目) と各志望動機の相関分析において、志望動機の「専門性追求」「適性考慮」「可能性追求」の項目で、それぞれ有意な正の相関が示され ($r=.49, r=.43, r=.35$), 志望動機の「無目的・漠然」では有意な負の相関が示された ($r=-.39$) (表3)。職業的アイデンティティを目的変数、志望動機を説明変数とする重回帰分析を行った結果、志望動機の「専門性追求」「適性考慮」は、職業的アイデンティティに有意な正の影響を与え、志望動機の「無目的・漠然」は、職業的アイデンティティに有意な負の影響を与えた ($p<.05$) (表4)。

2) 職業的アイデンティティと GSES との関連

GSES の5段階評定別職業的アイデンティティ得点の差について多重比較検定を行った結果、GSES の程度が「非常に高い」学生 (15.6%) は、その他の学生と比較し、職業的アイデンティティ得点が有意に高かった ($p<.01$) (表5)。

表4. 志望動機が職業的アイデンティティに及ぼす影響

(N=180)		
目的変数	説明変数	標準回帰係数
職業的アイデンティティ	可能性追求	0.10
	無目的・漠然	-0.30*
	適性考慮	0.24*
	他律的動機	-0.06
	専門性追求	0.16*
決定係数	0.32	* $p<.05$ 重回帰分析
自由度修正済み決定係数	0.31	

表3. 職業的アイデンティティと志望動機の相関

	職業的アイデンティティ (N=180)				
	全20項目	下位尺度			
		医療職選択への自信	自分の医療職観の確立	医療職として必要とされることへの自負	社会貢献への志向
可能性追求	0.35*	0.23*	0.27*	0.33*	0.25*
無目的・漠然	-0.39*	-0.34*	-0.41*	-0.26*	-0.28*
適性考慮	0.43*	0.48*	0.33*	0.43*	0.19*
他律的動機	-0.08	-0.11*	-0.09*	-0.04	-0.05
専門性追求	0.49*	0.48*	0.42*	0.34*	0.41*

* $p<.05$ スピアマンの順位相関係数

表5. GSES 5段階評定別職業的アイデンティティ得点 (N=180)

GSES 5段階評定 (人数, 割合)	職業的アイデンティティ得点
1. 非常に低い (15人, 8.3%)	91.7
2. 低い傾向にある (38人, 21.1%)	99.6
3. 普通 (67人, 37.2%)	104.2
4. 高い傾向にある (32人, 17.8%)	101.0
5. 非常に高い (28人, 15.6%)	116.0

**p<.01 多重比較検定 Steel-Dwass 法

表6. 就業継続意思別職業的アイデンティティ得点 (N=180)

就業継続意思 (人数, 割合)	職業的アイデンティティ得点
就業継続型 (116人, 64.4%)	105.4
結婚・出産退職, 再就職型 (59人, 32.8%)	102.2
結婚・出産退職型 (5人, 2.8%)	71.0

*p<.05 多重比較検定 Steel-Dwass 法

3) 職業的アイデンティティと就業継続意思との関連

将来に向けての就業継続意思を「就業継続型」「結婚・出産退職, 再就職型」「結婚・出産退職型」の3群に再分類し, 職業的アイデンティティ得点の差について多重比較検定を行った結果, 「就業継続型」および「結婚・出産退職, 再就職型」に回答した学生は, 「結婚・出産退職型」に回答した学生と比較し, 職業的アイデンティティ得点が有意に高かった ($p<.01$) (表6)。

IV. 考 察

1. 助産学生像

1) 職業的アイデンティティ

職業的アイデンティティ尺度の項目あたりの平均点を算出すると, 5.17 (SD \pm 0.79) 点であった。一方, 看護学生を対象とした調査²¹⁾では, 平均点4.52 (SD \pm 0.93) 点であった。これは, 尺度全体および4つの下位尺度すべてにおいて, 看護学生の得点より本研究における助産学生の得点の方が高い傾向にあった。現在, わが国で助産師免許を取得するには,

その前提として看護師免許を取得する必要がある, 助産学教育は看護学教育の積み重ねで行われている。また, 助産師には妊娠の診断から分娩介助, 産褥期, 新生児のケアを自律して行うという高度な能力が求められている。自己の判断のもとに正常分娩を介助するというような助産業務は, 助産師の職業的アイデンティティを高める^{22, 23)}ことが示唆されている。助産学生を取り巻く教育や業務の状況は, 助産学を学ぶ学生のモチベーションに強く影響し, 中でも助産業務における裁量は職業的アイデンティティを高める一因になっていると考える。

2) 志望動機

5つの志望動機のうち, 「あてはまる群」に回答した学生の割合が最も多かった志望動機は「専門性追求」156人 (86.7%) であり, 次いで「可能性追求」120人 (66.7%) であった。助産学生は専門的な知識や技術を身につけたいという思いが強く, 助産師職に対する資質向上への意欲が高いことが推察された。また, 志望動機の「他律的動機」「無目的・漠然」については, 「あてはまらない群」に回答した学生が多かったが, それと同時に, それぞれ約3割の学生が「あてはまる群」に回答していた。積極的な動機で助産師を目指している学生が多い反面, 消極的な動機を合わせもっている学生も少なくないことが明らかになった。看護学生を対象とした学習意欲の調査結果は, 入学前の動機が, 入学後の学習意欲に決定的な影響を及ぼしていないと報告されている。入学後の学生の主体的な学習意欲を引き出すためには, 助産学への関心が高まるような教育方法の工夫や開発が重要であると考えられる。

3) 自己効力感

GSESの平均点は6.9 (SD \pm 3.8) 点であった。この結果は, 同様の尺度を助産学生¹¹⁾および看護学生^{25, 26)}に用いたこれまでの報告と同程度の得点であった。調査時期が異なるために一概には言えないが, 助産学生および看護学生の自己効力感は, 同程度の高さであると考えた。

4) 就業継続意思

将来の就業継続意思の中で最も回答が多かったのは, 「就業継続」116人 (64.4%) であった。女性労働白書¹⁹⁾に示されている「高学歴女性と仕事に関するアンケート」において, 保健学を専攻した者の就業継続意思は, 「継続就業」が最も多く33.3%であった。いずれも, 就業を継続したいと考えている者が

多かったが、保健学を専攻した者よりも助産学生の方が、就業継続意思が明らかに高かった。出産・育児期にある助産師の就業継続に関する調査²⁷⁾において、約9割の助産師が就業継続の意欲があり、妊娠・出産・育児の経験は仕事を続けるうえでプラスになると答えていた。本研究においても、9割の学生が就業継続の意欲があり、出産・育児の経験が仕事に活かされやすい職種であることが助産学生の就業継続意思を高める一因になっていると考えられた。

2. 職業的アイデンティティと関連要因に関する検討

1) 職業的アイデンティティと各志望動機との関連

職業的アイデンティティ尺度(全20項目)と各志望動機の相関分析において、志望動機の「専門性追求」「適性考慮」「可能性追求」の項目に、それぞれ有意な正の相関が示された($r=.49$, $r=.43$, $r=.35$)。また、重回帰分析を行った結果、5つの志望動機のうち「専門性追求」と「適性考慮」は職業的アイデンティティを高める要因となっていた。医療系専攻学生を対象にした職業意識や価値観の調査²⁸⁾において、自己成長を重視した職業価値観は自己向上志向が強いと報告されており、専門的な知識や技術を身につけたいという動機は、助産師職に対する自己成長への意識を高めると推察された。

一方で、職業的アイデンティティ尺度(全20項目)と「無目的・漠然」との間には、有意な負の相関が示された($r=-.39$)。また、重回帰分析において「無目的・漠然」は、職業的アイデンティティを低下させる要因であることが明らかとなった。助産学生の「ただなんとなく自分にやれそうだ」という漠然とした動機は、目的を成し遂げようとする意志を弱めることから、職業的アイデンティティを低下させ、知識や技術習得に対する意欲が伸び悩むのではないかと危惧される。しかしながら、職業的アイデンティティは周囲との人間関係や肯定的体験を通して自分に適しているかどうかを確認しながら、徐々に確立していくため²⁹⁾、実習での体験を学生と一緒に振り返り、経験から学ぶ力を養うことができるような教育的支援³⁰⁾を行っていく必要があると考える。

2) 職業的アイデンティティと GSES との関連

GSESの5段階評定別職業的アイデンティティ得点をみた場合、GSESが「非常に高い」学生(15.6%)

は、その他の学生と比較して、職業的アイデンティティ得点が有意に高かった。大学生を対象にした調査³¹⁾において、自己効力感が高い学生は職業レディネスや職業選択へのモチベーションが高いと報告されている。助産学教育の必修科目である分娩介助実習において、学生は初めての分娩介助に戸惑うことが多い。しかしながら、自己効力感が高い学生はその困難をポジティブに受けとめることができ、目標に向かって知識や技術を修得できると考える。学生の職業的アイデンティティ形成を支援するには、否定的感情を肯定的感情に転化できるような教育的関わり³²⁾を通して学生の自己効力感を高め、主体的に学ぶ力を育成することが重要である。

3) 職業的アイデンティティと就業継続意思との関連

本調査は、将来に向けての就業継続について、あくまでも現時点での学生の考えを尋ねたものであるが、就業継続の意思が強い学生の方が、職業的アイデンティティが高かった。先行研究において、職業を通しての自己実現は就業継続意思に影響すると報告されており³³⁾、就業継続の意思が強い学生は、自己成長への意欲が高いと推察された。また、職業的アイデンティティと就業継続意思との関連²³⁾が報告されていることから、就業継続への意欲を維持できるように、職業的アイデンティティの形成を支援していくことが重要であると考えられる。

V. 研究の限界

本研究は、分析の対象者が180人であり、対象者数が十分な数とはいえない。よって、今後は対象者数を増加させ、研究の精度を高めていく必要がある。また、学習進度の違いによる調査バイアスを避けるためには、調査時期に関する検討が必要である。

VI. 結 語

助産学生の職業的アイデンティティ、志望動機、自己効力感、就業継続意思の実態および職業的アイデンティティと関連する要因について検討し、以下の点が明らかになった。

1. 助産学生の職業的アイデンティティ得点は高く、志望動機のうち、「専門性追求」と「適性考慮」は職業的アイデンティティを高める要因であるこ

とが明らかになった。

2. 学生の自己効力感は、GSES 5段階評定の「普通 (GSES: 5 から 8 点)」に位置していた。GSES が「非常に高い」学生ほど、職業的アイデンティティ得点が高いことが明らかになった ($p < .01$)。
3. 学生の就業継続意欲は強く、就業継続意思が強いほど職業的アイデンティティ得点が高いことが明らかになった ($p < .05$)。

以上のことから、助産学教育の質的向上を図るためには、モチベーションの高い学生の主体的学習意欲を向上させる教授法を開発するとともに、職業的アイデンティティをさらに高めるよう、学生の特質を踏まえた教育的支援を強化する必要性が示唆された。

謝 辞

本研究の調査にご協力いただきました皆様方に、深く感謝いたします。

なお、本研究は、2012年度熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程修士論文の一部を加筆・修正したものである。また、本研究の一部は、日本看護学教育学会第23回学術集会以て発表した。

引用文献

- 1) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標 増刊. 59 (9) : 48-52, 2012.
- 2) 厚生労働省：第9回「医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する検討会」<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/09/s0905-7.html> [2011.9.12]
- 3) 青木康子：助産師教育のあるべき姿を考える. 母性衛生, 52 (1) : 11-17, 2011.
- 4) 山内葉月：少子社会における助産師の新たな役割と教育上の課題に関する研究. 熊本大学医学部保健学科紀要, 3 : 111-121, 2007.
- 5) 竹内美恵子：これからの助産師教育のあり方. 母性衛生, 43 (3) : 58-59, 2002.
- 6) 宮崎文子：時代が求める自律した助産師への期待. 看護科学研究, 8 : 40-45, 2009.
- 7) 山内葉月：助産師教育の現状と課題に関する考察. 熊本県母性衛生学会雑誌, 11 : 51-58, 2008.
- 8) 文部科学省：保健師助産師看護師法及び看護師などの人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律要綱, http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1282564.htm. [2011.9.12]
- 9) 門脇豊子, 清水嘉与子, 森山弘子：保健師助産師看護師学校養成所指定規則 看護師等養成所の運営に関する指導要領について. 看護法令要覧 平成24年版. 日本看護協会出版会, 2012.
- 10) 小泉仁子：助産師の職業的アイデンティティの発達プロセスに関する研究－助産実践を通して生じる内面的な変化に着目して－. お茶の水医学雑誌, 58 (1) : 13-28, 2010.
- 11) 田川奈保子, 宮原春美：助産学生の入学動機と職業的アイデンティティ. 日本看護学会論文集, 41 : 54-57, 2010.
- 12) 小藪智子, 黒田裕子, 合田友美他：看護学生の職業的アイデンティティ形成に関する研究 (第二報)－経年的変化から考える教育的支援－. 川崎医療短期大学紀要, 27 : 25-29, 2007.
- 13) 丸山彩香他：助産学実習での学生の分娩介助における自己効力感と学生による実習評価の関連. 神奈川県立保健福祉大学誌, 8 (1) : 117-121, 2011.
- 14) 横手直美, 竹田まゆ美, 楠広子他：助産学の学習初期における効果的教育方法に関する研究－分娩見学自主実習の効果と課題－. 日本赤十字広島看護大学紀要, 10 : 7-14, 2010.
- 15) 中島由紀子, 岩田銀子, 山内葉月：助産教育に関する文献研究－助産学生を対象とした研究論文の動向とその示唆するもの－. 日本看護学教育学会誌, 22 : 298, 2012.
- 16) 落合幸子, 本多陽子, 落合良行他：医療系大学への進路決定プロセスと入学後の職業的アイデンティティとの関連. 医学教育, 37 (3) : 141-149, 2006.
- 17) 中野良哉, 中屋久長, 山本双一他：医療系専門学校生の進学動機と学校適応感. 高知リハビリテーション学院紀要, 11 : 13-18, 2009.
- 18) 坂野雄二, 東條光彦：一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み. 行動療法研究, 12 (1) : 73-82, 1986.
- 19) 労働省女性局：平成11年版女性労働白書－働く女性の実情－. 21世紀職業団, 61-74, 2000.
- 20) 原井美佳：看護師長アイデンティティに関連す

- る要因の検討. 日本管会誌, 11 (2), 2008.
- 21) 藤井恭子, 野々村典子, 鈴木純恵他: 医療系学生における職業的アイデンティティの分析. 茨城県立医療大学紀要, 7: 131-141, 2002.
- 22) 篠原良子: 日本における助産師の職務行動への影響要因. 医療保健学研究, 2: 65-77, 2011.
- 23) 佐藤美春, 菱谷純子: 助産師の職業的アイデンティティに関連する要因. 日本助産学会誌, 25 (2): 171-180, 2011.
- 24) 永嶋由理子: 看護学生の学習意欲の検討. 山口県立大学看護学部紀要, 5: 39-45, 2001.
- 25) 三崎直子, 宮本昭子, 西野加代子他: 助産師学生の進学動機と助産師のイメージ. 弘前大学医学部保健学科紀要, 2: 45-51, 2003.
- 26) 舟越和代, 小川佳代, 三浦浩美: 看護学生の自己効力感と小児看護学実習前の自己評価との関連. 香川県立保健医療大学紀要, 3: 111-116, 2006.
- 27) 北川良子: 出産・育児期にある助産師の就業継続に関する実態調査. 母性衛生, 51 (2): 416-424, 2010.
- 28) 山中洋子, 安藤智子: 医療系専攻学生の意識調査 - 入学動機, 教育・生活状況, 職業価値観, 就業動機からの検討 -. 大阪教育大学紀要 第V部門, 57 (2): 115-130, 2009.
- 29) 上山和子: 看護学生の進路選択要因が職業的アイデンティティ形成に及ぼす影響とその対処法. インターナショナル Nursing Care Research, 8 (3): 113-122, 2009.
- 30) 増永啓子: スタッフと学生の学ぶ力を引き出す助産実習. 助産雑誌, 67 (8): 630-633, 2013.
- 31) 小久保みどり: 大学生の職業選択・キャリア開発へのモチベーションとキャリア志向. 立命館経営学, 37 (3): 1-20, 1998.
- 32) 小泉仁子, 太田奈美, 宮本眞巳: 学士課程の助産学生の職業アイデンティティの形成過程について - 助産実習での体験に焦点を当てて -. 順天堂大学医療看護学部医療看護研究, 4 (1): 64-71, 2008.
- 33) 加藤栄子, 尾崎フサ子: 中堅看護職者の職務継続意志と職務満足及び燃え尽きに対する関連要因の検討. 日本看護管理学会誌, 15 (1): 47-56, 2011.

(平成26年1月31日受理)

Study on the midwifery education : Present situation of professional identity in midwifery students and related factors

Yukiko NAKASHIMA, Hazuki YAMAUCHI

The purpose of this study was to clarify the factor relevant to a midwifery student's professional identity, and the subject on education in order to obtain fundamental data to improve the quality of midwifery education.

An anonymous questionnaire consisted of professional identity, motivation to midwife, self-efficacy, intention to continue working, survey was conducted of 249 midwifery students.

The results clarified the following:

1. The midwifery student's professional identity score was high and "speciality pursuit for midwife" and "consideration aptitude" had positive influence on the professional identity among motivations.
2. The student with higher self-efficacy had the higher professional identity score.
3. The midwifery students had a strong intention to continue working and the students which a stronger intention to continue working had the higher professional identity score.

Therefore, in order to improve the quality of midwifery education, it was necessary to strengthen the development of teaching methods and educational support which were based on the student's characteristic.